



■はじめに

足柄平野から富士山を眺めると、手前に小高い円錐状の山が見えます。その形状が、足柄峠を見張る櫓のようであったことから「矢倉岳」の名称が付いたともいわれています。今回は、地質学的に見ても、深成岩体として世界的に珍しい矢倉岳の露頭を紹介したいと思います。

■矢倉岳へのアクセス

矢倉岳は、南足柄市の西部に位置します。矢倉岳山頂に登るには、いくつかのルートがあります。今回は、足柄峠（足柄万葉公園）の登山口から山伏平を経由して矢倉岳山頂に登り、矢倉沢集落に下りるルートで紹介

します（図 1）。

まず足柄峠へのアクセスについて紹介します。通常は路線バスが走っていませんが、4、5 月の新緑の季節と 10、11 月の紅葉の季節には、土日限定で伊豆箱根鉄道大雄山駅（関本バス停）から地藏堂を経由して足柄峠行きのバス（箱根登山バス）が 1 日に数本運行されています。矢倉岳に向かうには、足柄峠の手前の足柄万葉公園バス停で下車しましょう。

なお、大雄山駅（関本）から地藏堂までは通年で路線バスが運行しています。バスの本数が少ないのでバスの時刻に合わせて矢倉沢本村から登るルート、地藏堂から山頂を目指

すルートなどをいろいろと計画してみるのも楽しみの一つです。

また、足柄万葉公園付近には、乗用車で 10 台分くらいの駐車スペースがありますが、ハイシーズンには満車となってしまうこともあります。

さあ、足柄万葉公園から「矢倉岳→」という案内板を目印に尾根道を進んでいきましょう。

■ローム層と宝永スコリア

場所：南足柄市矢倉沢（地点 1）

北緯 35 度 19 分 51.11 秒

東経 139 度 1 分 14.50 秒

足柄万葉公園からヒノキ林を通過して尾根道を歩いて行くと、足元が黒色の土から出来ていることに気づきます。地点 1 まで行くと、崖が崩れた部分があり、遠くから地層を観察することが出来ます（写真 1）。茶色の地層はローム層、その上を覆う黒色の地層は 1707（宝永 4）年に富士山が噴火したときに大量に降り注いだスコリアです。危険ですのでロープを越えて崖の方には絶対に近づかないでください。

■送電線下の足柄層群畑層の礫岩層

場所：南足柄市矢倉沢（地点 2）

北緯 35 度 19 分 51.90 秒



図 1 矢倉岳周辺の地形図。地理院地図（<https://maps.gsi.go.jp/>）に加筆。



写真1 ローム層と宝永スコリア



写真2 足柄層群燐層の礫岩層

東経 139 度 1 分 30.65 秒
さらに進んでいくと、上空に送電線が見えてきます。送電線の真下に来ると東京電力パワーグリッド(株)の看板が立っています。その脇に、足柄層群燐層の礫岩層が露出しています(写真2)。よく観察すると、礫は丹沢層群由来と考えられる緑色

岩や火山岩が多く、わずかにトータル岩も含まれています。礫は比較的角が取れて円磨されており、その粒径は様々(淘汰が悪い)です。おそらく海底のチャネル(溝のようなところ)に流れ込んだ土石流のような堆積物であると考えられます。

■ 鞍部の足柄層群燐層の泥岩層

場所：南足柄市矢倉沢(地点3)

北緯 35 度 19 分 53.73 秒

東経 139 度 1 分 40.88 秒

さらに登山道を進むと、両側が崖となった鞍部に出ます。この付近には足柄層群燐層の泥岩層が露出して



写真3 足柄層群燐層の泥岩層



写真4 泥岩層にみられる玉ねぎ状風化



写真5 山伏平



写真6 矢倉岳山頂から富士山を望む

います（写真3）。この泥岩層は細かく破碎されています。後述の矢倉岳の貫入もしくは周辺に分布する断層活動の影響によって堆積後に破碎されたものと考えられます。また、この泥岩層が玉ねぎ状に風化している様子も観察されます（写真4）。

■山伏平

場所：南足柄市矢倉沢（地点4）

北緯 35 度 19 分 55.46 秒

東経 139 度 1 分 54.09 秒

山伏平（写真5）はこれまで進んできた足柄峠ルート他に、地蔵堂ルート、県立21世紀の森ルートなどが合流する地点です。これまでは

比較的アップダウンの少ない尾根道を歩いてきましたが、いよいよここから矢倉岳本体に一気に登ることになります。

■矢倉岳山頂

場所：南足柄市矢倉沢（地点5）

北緯 35 度 19 分 42.89 秒

東経 139 度 2 分 7.26 秒

山伏平から約30分ほどで、矢倉岳山頂に到着します。山伏平から山頂までの間には露頭はほとんど出ていませんが、矢倉岳をつくる石英閃緑岩の転石を見ることができます。山頂は開けており、晴れた日には山頂から西方には富士山、東方には足

柄平野を望むことができます（写真6）。

■矢倉岳山頂東方の標高640m付近に見られる矢倉岳石英閃緑岩

場所：南足柄市矢倉沢（地点6）

北緯 35 度 19 分 47.14 秒

東経 139 度 2 分 31.44 秒

矢倉沢本村集落から山頂に向かう登山道の標高640m付近が、矢倉岳をつくる石英閃緑岩体と足柄層群の境界になります。ちょうどこの付近に石英閃緑岩の露頭が見られます（写真7）。矢倉岳石英閃緑岩は、



写真7 矢倉岳石英閃緑岩の露頭



写真8 箱根ジオパーク「矢倉岳」案内板



写真 9 矢倉沢公民館から矢倉岳を望む

約 115 万年前に足柄層群畑層に貫入した深成岩体です。地質学的に見ると約 115 万年前という年代は第四紀と呼ばれるかなり新しい時代です。本来、深成岩体は、マグマが長い時間をかけてゆっくり冷え固まっていますが、このように若い深成岩体が地表まで隆起して山を作っていることは世界的に見ても非常に稀なことです。

■矢倉沢公民館前の箱根ジオパーク「矢倉岳」案内板

場所：南足柄市矢倉沢（地点 6）

北緯 35 度 19 分 44.87 秒

東経 139 度 3 分 19.30 秒

矢倉沢本村集落の中にある、矢倉沢公民館の前には、箱根ジオパーク「矢倉岳」の案内板が設置されています（写真 8）。矢倉岳がどのようにして出来たのかがわかりやすく図



写真 11 矢倉岳石英閃緑岩で出来た箱根ジオパークのロゴ

示されています。矢倉沢公民館から矢倉岳の方角を見上げると、前山と言われる足柄層群で出来た山の奥に矢倉岳が見えています（写真 9）。

■大雄山駅前の箱根ジオパーク総合案内板

場所：南足柄市関本

北緯 35 度 19 分 9.31 秒

東経 139 度 6 分 10.69 秒

大雄山駅前に、箱根ジオパークの総合案内板が設置されています（写真 10）。矢倉岳の他のジオサイトも紹介されています。この総合案内板の左側に、石材で出来た箱根ジオパークのロゴを見ることが出来ます。この石材の元となっている石が、矢倉岳の石英閃緑岩です。きれいに研磨されていますので岩石の特徴をよく観察することが出来ます（写真 11）。

■おわりに

今回は箱根ジオパークのジオサイトにもなっている南足柄市の矢倉岳を紹介しました。新緑や紅葉のシーズンなど、お手軽にハイキングが出来る身近な山です。山をつくる地層にも少し興味を持って登ってみるとまた面白いと思います。



写真 10 大雄山駅前の箱根ジオパーク総合案内板